

2 生活に密着した道路の整備

問合せ先 道路建設課

通勤・通学、買い物など日常の暮らしの利便性・快適性を向上させるため、都市部においては交通渋滞の解消・緩和など、また、離島などの地方部においては狭くてすれ違いが困難な道路や線形が悪く走行しにくい道路の改良を進めます。

○都市部の交通円滑化対策

都市部での厳しい交通渋滞

本県は地形的な要因から、交通が都市部に集中しやすい状況にあります。

このため、長崎、佐世保、諫早などの都市部においては、慢性的な交通渋滞が発生し旅行速度が低下しており、日常生活や産業活動に大きな支障となっています。



【長崎都市圏】



【佐世保都市圏】



【県央都市圏】

都市部のランク別旅行速度 (R3センサス)

凡 例	
【混雑時平均旅行速度】	
	: 10km/h未満
	: 10~20km/h
	: 20~30km/h
	: 30~40km/h
	: 40~50km/h
	: 50km/h以上
	非観測区間



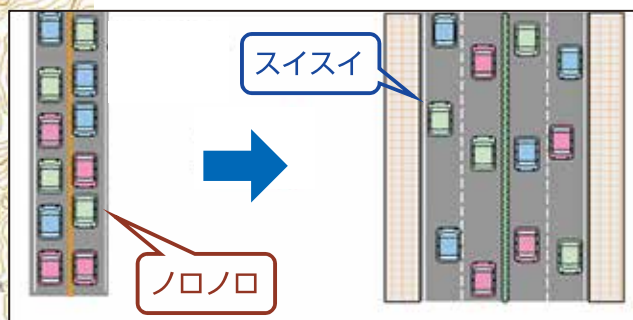
整備前



整備後 令和5年12月完成



一般国道499号(栄上拡幅) 2→4車線拡幅



混雑が緩和されスムーズで快適な車両の流れが確保される。

○離島部などの生活道路対策

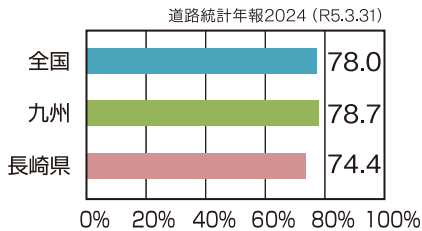
道路改良が大きく遅れている離島部

本県は陸地のほとんどが離島・半島で構成され、山がちな地形で平地が少ないことから全国に比べ道路改良が遅れています。特に、離島部では、本土に比べ地形が急峻で費用がかかることもあって道路改良が遅れており、すれ違いが困難な区間や急カーブのため走行性の著しく悪い区間がいまだ多く存在しています。

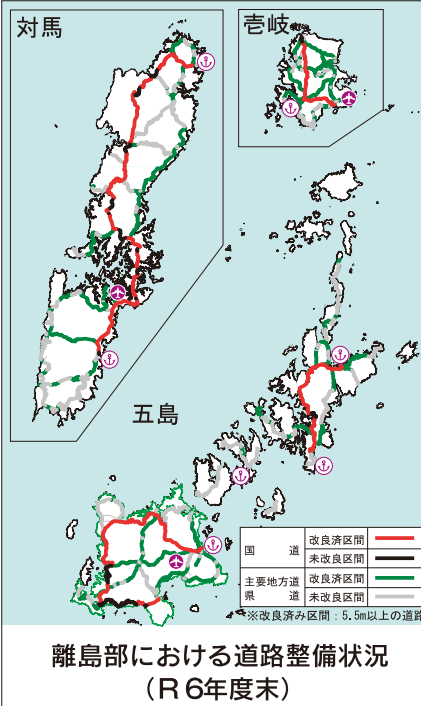
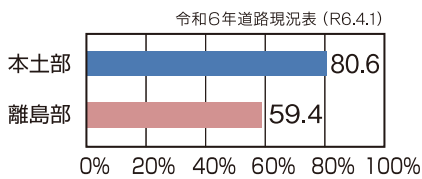
国・県道の道路改良率

(車道幅員5.5m以上国県道)

長崎県は全国・九州平均と比較して改良率が低い



離島部は更に改良率が低い



主要地方道 厳原豆酸美津島線(吹崎工区) 1→2車線拡幅



現道状況



箕崎トンネル施工状況



現況道路	黄色線
事業区間	赤線

【事業目的】
円滑な通行と走行性の改善を図る

3 安全・安心な社会を支える道づくり

問合せ先 道路維持課

通学路における歩道の整備率は6割程度で、まだ十分とは言えない状況です。歩行者の安全・安心な移動空間の確保のため、歩道の整備など、歩行者の安全性向上対策を実施します。また、安全で快適な歩行空間の確保、及び地震時や台風時の電柱の倒壊を防ぐため、電線類を道路の地下等に収める「無電柱化」を推進します。

歩道など交通安全対策の推進

通学路の安全確保のため、道路管理者、教育委員会、警察及び地元自治会が連携して定期的に合同点検を実施しています。

合同点検で危険と判断された箇所や事故の多い箇所について安全で快適な歩行空間の確保のために、令和7年度は延長2.5kmの歩道整備を目指します。

〔交通安全総点検実施状況〕



〈主要地方道川棚有田線（東彼杵郡川棚町中組郷）〉



整備前



整備後

無電柱化の推進

電線類を道路の地下等に収めることにより、安全で快適な道路空間の確保、景観の向上、電柱が無くなる事による地震や台風時の安全性の向上を図ります。

令和7年度整備中の延長9.0km

無電柱化のイメージ



〈一般県道長与大橋町線（長崎市昭和町地区）〉



整備前



電柱が無くなり、景観もスッキリ
安全性も向上しました

整備後

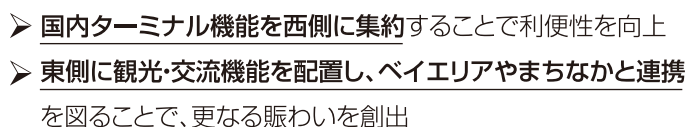
問合せ先 港湾課

長崎港元船地区整備事業

事業実施にあたっては、民間資金等を活用した官民連携（PPP／PFI）事業の導入を検討しています。



▶ 計画平面図



1. 暮らしを支える国内ターミナル機能等の強化による利便性向上
2. 臨海部を活かした観光・交流機能等による賑わいの創出
3. 車両や歩行者にとって優しいみちづくりによる回遊性向上
4. 港、海が感じられる景観による魅力の向上
5. 官民が連携した整備、運営、維持管理の実施によるおもてなしの向上

2 国際交流の拠点となる港湾の整備

問合せ先 港湾課

●クルーズ観光による地域経済の活性化に向けた受入環境の整備

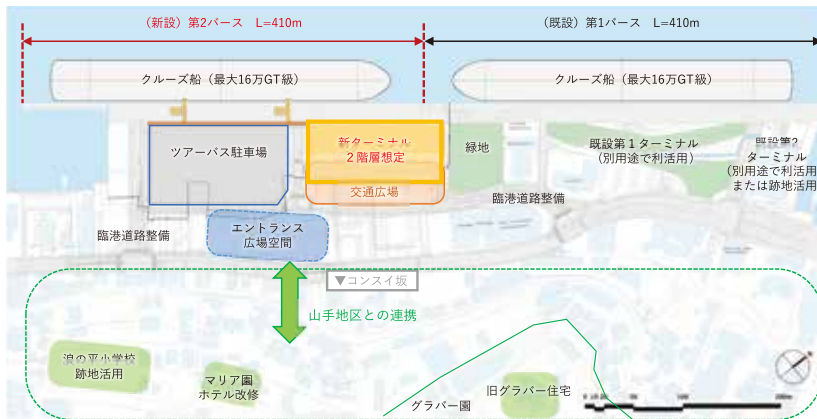
国際クルーズ船の受入

国際クルーズ船が2023年3月に再開され、長崎港においては、24年に年間160隻、25年には4月時点で約200隻の入港が予定されており、今後も多くのクルーズ船による賑わいの創出が期待されます。

長崎港 松が枝2バース化事業

クルーズ需要の増加やクルーズ船の大型化に対応するため、岸壁を410m延伸し、旅客ターミナル、ツアーバス駐車場を整備することで、更なるクルーズ船の受入拡大を目指します。

あわせて、周辺の道路や緑地、エントランス・広場空間などを関係機関と連携して整備し、山手地区へ観光客を呼び込むなど、“みなとまちづくり”を促進します。



2025年3月11日

左：松が枝岸壁（Noordam	82,318総トン）
右：出島岸壁（Norwegian Sky	77,104総トン）

●国際定期航路による外国人観光客の安全・安心な受入環境の整備

釜山との国際定期航路

対馬一釜山間の国際定期航路は、新型コロナウイルスのまん延により、約3年間全ての国際定期船が運休となっておりましたが、2023年2月に運航が再開し、外国人観光客が戻りつつあります。

2025年4月現在、比田勝港には週18便、巖原港には週2便の国際定期船が就航しています。

比田勝港では、船舶の増便に対応できるよう浮棧橋を整備し、観光客の受入体制強化を図ります。



比田勝港



国際定期船の運航再開（令和5年2月）



浮棧橋の整備

巖原港



国際定期船の運航再開（令和6年4月）

3 離島・半島等の暮らしを支える地域交通の確保

問合せ先 港湾課

離島と本土等を結ぶ定期航路の安定的な海上運輸活動を支え、安全・効率的で利便性が高いみなと整備を進めます。

郷ノ浦港のJF乗降施設のバリアフリー化（JF用浮棧橋の整備）

※JF=ジェットfoil



浮棧橋の整備により、乗降の際の高低差が解消され、安全で円滑な乗下船が可能となりました。また、ターミナルに接続する屋根付き通路を整備し、利便性が向上しました。

厳原港の埠頭再編（旅客埠頭の整備）



新ターミナルビル（市事業）やJF用浮棧橋の整備により安全性・利便性が向上しました。駐車場や緑地を整備することで、旅客埠頭の更なる機能拡充を図ります。

4 国内物流ターミナルの整備

問合せ先 港湾課

多比良港における物流岸壁の整備



多比良港は砂・砂利を取り扱う係留施設が1バースのみであり、施設水深も不足しているため、岸壁の拡張及び泊地浚渫を行うことで、荷役の効率化を図ります。

1 都市における街路事業

問合せ先 道路建設課

市街地の活性化や都市のコンパクト化を推進し、都市内の交通円滑化や歩行者等の安全で快適な歩行空間を確保するため街路事業に取り組みます。

●都市計画道路長崎時津縦貫線（長崎市）

高規格道路「長崎南北幹線道路」の一部であり、地域間の連携強化や、長崎市内の慢性的な渋滞緩和、事故リスクの低減等を目的に、令和4年度より整備を行っています。



【茂里町～滑石工区】
事業延長：5,300m
幅員：18.0m（4車線）
事業期間：令和4年度～

2 「長崎市中央部・臨海地域」の都市再生

問合せ先 都市政策課

国土交通省による「都市・居住環境整備重点地域」の指定を受けた『長崎市中央部・臨海地域』において、長崎市と県で策定した「都市・居住環境整備基本計画」に基づき都市の再生を図ります。広域交通拠点の整備を図り、その効果を最大限に発揮させ、国内や東アジアからの交流人口を拡大し、その効果を長崎市のみならず離島を含む県全体にも波及させることを目指します。

また、令和2年9月「都市再生緊急整備地域」の指定を受けた『長崎中央地域』では、民間の都市開発の支援に取り組んでいきます。

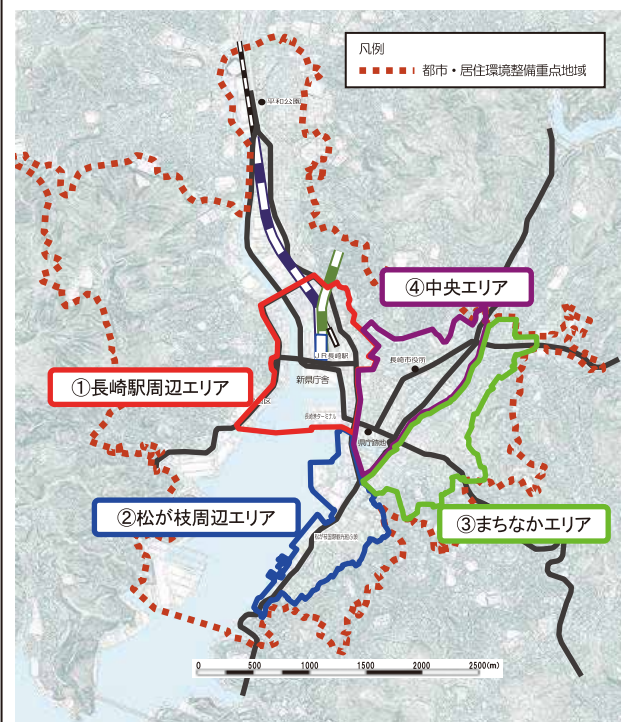
目標 ①都市の魅力の強化②回遊性の充実
③国際ゲートウェイ機能の再構築

平和と文化の国際交流拠点都市
長崎の再生

交流人口の拡大

地域の活力の再生

都市再生の対象区域図と4つの重点エリア

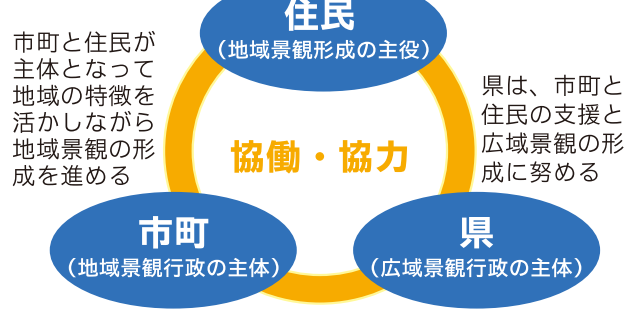


3 長崎らしい景観の創出

問合せ先 都市政策課

長崎の自然、歴史、文化的背景から、他の地域には見られない独特の景観を保全・創出するため、地域住民や市町が主体となって取り組む景観まちづくりへの技術的・財政的な支援を行うほか、景観に配慮した公共事業により良好な景観形成を先導します。

各主体の役割



旧千綿村農協米倉庫



趣蔵 神代ふれあい館

[主な施策]

広域景観形成推進事業

市町をまたがる広域エリア等において、市町、住民団体等と連携し総合的な景観形成を図ります。

活動サポート事業

住民と市町が協働して継続的に取り組む景観まちづくり活動等を支援します。



カトリック三浦町教会



アドバイザー派遣の様子

景観資産登録制度

個性的で魅力ある地域景観の核となっている「まちなみ等」「建造物等」「樹木」を登録し、広く周知します。また、登録した景観資産の保全・活用事業を市町と共同で支援します。

アドバイザー派遣制度

住民や市町、県が行う美しい景観形成を目指した地域づくりや施設整備等に対し、専門家を派遣して、技術的支援を行います。

公共デザイン推進制度

公共事業のうち、地域景観への影響が大きいものについて、専門家によるデザイン支援により、地域の魅力ある景観形成を先導し、市町や民間への波及を図ります。

大規模建造物等の規制・誘導

地域景観に影響を与える可能性が高い大規模な建築物・工作物や開発行為等について、景観法に基づく届出制度を活用し、規制・誘導を行います。



公共デザイン推進制度活用事例
(口之津港ターミナルビル)

● 住まいづくり

1 長崎型住宅の推進

問合せ先 住宅課

長崎県の人口減少抑制に寄与するため、低廉・高品質・子育てしやすい住環境など県民のニーズにあった住まいの供給を促進します。

< 取組内容 >

- ・長崎県では、住宅費の負担を減らし、高品質で長持ちする「長崎型住宅」を推奨しています。
- ・「長崎型住宅」の供給・維持管理を行う県内事業者を「登録事業者」として県HPに公開するなど、官民連携して取り組んでいます。

長崎型住宅
長もちの家



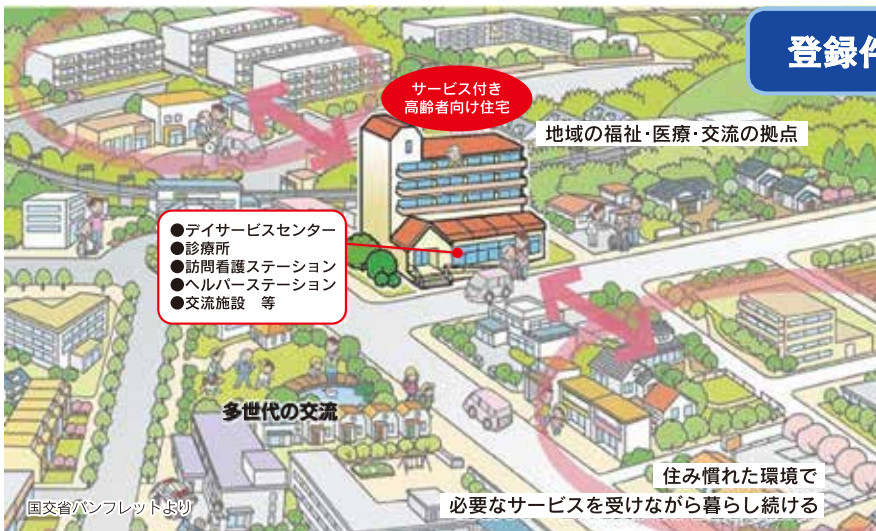
- ☑ 長期優良住宅
- ☑ 維持管理・価値◎
- ☑ 事業者は登録制
- ☑ トータルコスト◎



2 サービス付き高齢者向け住宅

問合せ先 住宅課

今後、団塊の世代が後期高齢者となった時の高齢者向け住宅不足に対応するため、バリアフリー構造（段差解消、手すり設置など）を備え、安否確認・生活相談サービスやその他のサービスを提供する住宅を整備します。



事例

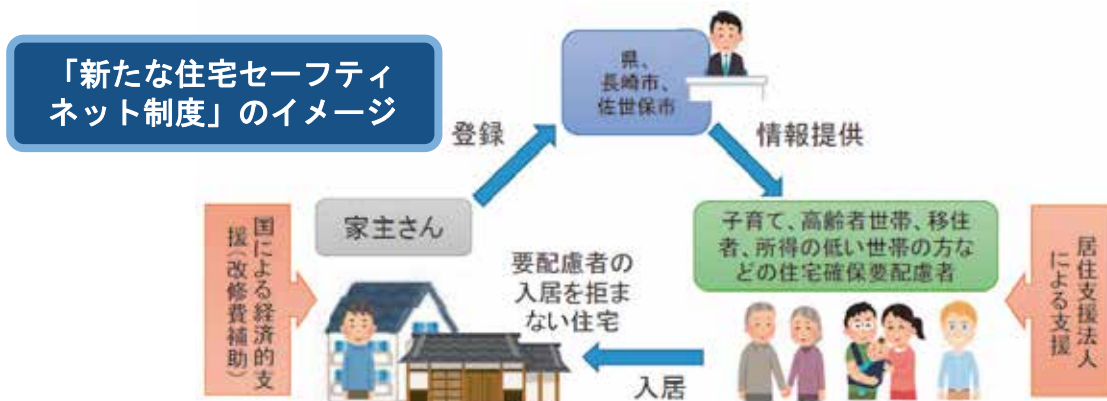


3 セーフティネット住宅の登録

問合せ先 住宅課

子育て世帯や高齢者、移住者、障害者、所得の低い世帯等の住宅確保要配慮者の入居を拒まない住宅（セーフティネット住宅）の登録を推進しています。

現在938棟6,617戸（R7.3.10現在）が登録されています。



4 県営住宅の建設、バリアフリー改修事業

問合せ先 住宅課

県営住宅のバリアフリー性能、及び居住性の向上を目的とし、地域の実情に合せて、既存住宅をバリアフリー改善する場合と、解体して建替える場合があります。また、同じ団地内で、改善事業と建替事業を同時に行うこともあります。なお、長崎市の川口アパートでは、PFI事業による建替を進めています。

目標の設定

※県総合計画による目標

- ・県営住宅のバリアフリー化：54.3%(R1)→61%(R7)
- ・R6年度末の実績 55.8%



建 替

川口アパート

バリアフリー 改善の工事例



5 市街地再開発事業

問合せ先 都市政策課、住宅課

市街地再開発事業は、複数の敷地を共同化し、合理的かつ健全な土地利用を行うことで、都市機能の更新と、都心居住の推進や、中心市街地の活性化を図り、豊かで潤いと賑わいのある都市空間を創造する事業です。



新大工町地区第一種市街地再開発事業

6 長崎空き家deミライ創出事業

問合せ先 住宅課

改正空家法に基づき、市町が指定する「空家等管理活用支援法人」と連携して、迅速かつ柔軟な空き家対策を推進します。

< 補助対象 >

- ・市町（空家等管理活用支援法人に助成する市町）

< 補助内容 >

- ・（ソフト事業）情報発信や普及啓発経費、運営経費等
- ・（ハード事業）空き家の調査・売却費用、改修・DIYに要する費用、解体及び跡地活用に要する費用



7 長崎県危険ブロック塀除去支援事業

問合せ先 住宅課

地震発生時のブロック塀の倒壊による災害を未然に防ぐため、通学路に面した危険なブロック塀の撤去を行う方に対して支援しています。

< 補助対象者 >

- 危険なブロック塀等を除却する者（市区町村民税非課税者）
- ※事業実施市（R7）：長崎市、島原市、松浦市、五島市、雲仙市、南島原市

< 補助内容 >

- 小中学校の通学路（地域防災計画等の避難路）に面し、路面からの高さが1m
- 1件あたり 上限10万円（市町補助と合わせて20万円まで）



熊本地震での被災事例



長崎県の日本一・世界一（土木部関連）

～長崎県の日本一・世界一 part.11（平成20年3月、長崎県広報広聴課作成）より抜粋～

グラバー邸	日本最古	文久3年(1863年)建築されたグラバー邸は、現存する木造洋館としては日本最古
大浦天主堂	日本最古	長崎市南山手町の大浦天主堂は、日本に現存する最古の天主堂。慶応元年(1865年)2月19日落成、献堂設計はジラール・フューレ両フランス人神父、施工は小山秀による(国宝指定)
出島橋	日本最古	長崎市の中島川下流に架かる出島橋は明治23年(1890年)に作られ、現役として使用されている鉄橋としては日本最古
高島町端島(軍艦島)の炭坑住宅	日本最古	高島町端島(軍艦島)の炭坑住宅(大正5年(1916年)建設、地上7階、地下1階)は、現存する鉄筋コンクリート造高層アパートとしては日本最古(ただし、現在人は住んでいない)
生月大橋	世界最大	平成3年(1991年)7月完成した生月大橋の中央径間400mは三径間連続トラス橋としては世界最大
オランダ商館	日本初	慶長14年(1609年)、平戸市に建設されたオランダ商館は、日本で初めて作られたヨーロッパ様式の建物
興福寺	日本初	元和9年(1623年)、長崎在留の唐人たちが宗教行事を行う場として創建したのが興福寺の始まりで、日本で最初の唐寺
近代都市計画	日本初	万延元年(1860年)11月、大浦埋め立て地に、外国人の設計による地割りが行われ、道路幅、敷地寸法をそろえ、下水路を設けた。整然とした都市計画が横浜よりも一足早く行われた。
アスファルト道路	日本初	長崎市のグラバー園内のリンガー邸前の林の中のアプローチは、イギリス人の貿易商トーマス・B・グラバーの息子・倉場富三郎がつくらせた日本初のアスファルト道路。
眼鏡橋	日本初	寛永11年(1634年)、唐僧黙子如定(もくすにょしょう)により架けられた眼鏡橋は、日本初のアーチ構造石橋
鐵橋	日本初	長崎市浜町と築町の間に架かる鐵(くろがね)橋は、明治元年(1868年)8月1日完成した日本最初の鉄橋(現在の橋は改築されたもの)
西海橋	日本初	佐世保市針尾と西彼杵半島を結ぶ西海橋は、我が国初の上路式プレストアーチ橋(総延長316.26m、中央径間216m)。昭和30年(1955年)10月完成で、我が国初の有料橋。
長崎空港	世界初	昭和50年(1975年)5月に開港した長崎空港は、大村湾に浮かぶ箕島(みしま)周辺を造成してつくられた世界初の本格的海上空港。